

学校の教育目標

- ・よく考える子
- ・心ゆたかな子
- ・健康な子

学校経営方針（確かな学力向上にかかわる内容）

・各教科、領域の学習が横断的・総合的に進むよう工夫するとともに、基礎的・基本的な内容の定着を図るため、年間指導計画や指導方法の改善に努め、問題解決的な学習や自然体験、交流活動などを通し、思考力・判断力・表現力等を育成する。

確かな学力向上に向けた具体的な取組

<p>基礎的・基本的な知識・技能の習得</p>	<p>・国語では、「文のつくり」について段階的に身に付けさせるために、主語と述語に当たる部分を互に対応させて話したり、書かせたりさせる。また、修飾と被修飾との関係や文の構成に注意して話したり、書いたりさせる。「語句」について段階的に身に付けさせるために、目的に応じて必要な語句を調べることができるように辞書の使い方を身に付けさせると同時に、それによってよりよい表現になることを実感できる指導を重視する。「話し方」については、実際に話す場面を想定し、聞き手が聞き取りやすい声の大きさや話す速さについて具体的にとらえさせる。場面ごとに聞き手に評価させ、発声や音量について試行錯誤させる。</p> <p>・算数では、「繰り下がりのある引き算」の段階的な指導として、「10までの数の合成・分解」を基礎に、波及的に繰り下がる計算が出てくる10の位が空位な形を繰り返し練習する。筆算において繰り下がりがあった場合は、適宜、必要箇所小さい数字を書き込むなどして、児童が自ら「確かめ算」をして確かめるようにさせる。「かけ算」の指導に当たっては、かけ算の意味やきまりについての理解を図る。「分数」では、具体物を使って2分の1や4分の1などについて、実感をともなって理解できるようにする。「測定の技能」を段階的に育てるために、計器の使い方や適切な計器を選択することを身に付けさせる。「作図」の段階的な指導では、定規の位置と線を引く方向に注意させる。また「式の意味の読み」を段階的に育てるために、いろいろな場面を式に表した場合に、その式の意味がわかるように半具体物を用いたり、□やテープ図を用いたりして関連づけさせる。</p>
<p>思考力・判断力・表現力の育成</p>	<p>国語</p> <p>・「話すこと・聞くこと」では、言葉を段階的に使いこなす指導を重視し、児童に身近な話題を設定することで伝えたい事柄を意識しやすくさせる。話題を身近に捉えることが難しい児童には、児童にとって身近な言葉で言い換え、話題が身近に感じられるようにする。</p> <p>・「書くこと」では、書く事柄を明らかにする力を育てるために、例えば文学作品を読んで感想を書く際には、児童の感想につながる発問を数通り行い、児童が感じたことを言葉として表現させ、書く事柄を見つける手がかりをもたせる。そして書くために必要な情報について考えさせるようにする。</p> <p>・「読むこと」では、文章を読み自分の考えをもつことができるようにさせる。文章から読み取った事柄を基にして、自分の考えをもたせ、考えた理由を明らかにさせる。その際に考える対象となる事柄を明らかにさせることで、児童は「どのように考えたのか」という考えをもつことができ、「どうして」という理由を明らかにすることもできるようになる。</p> <p>算数</p> <p>・「数のいろいろな見方」は10の合成・分解ができたり、十を単位とする見方ができたりすることが基本である。学年が上がるごとに桁数が上がり、その応用が小数のかけ算やわ</p>

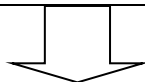
	<p>り算、分数のかけ算やわり算にも生かされるので、特に1年生の段階では半具体物などを使い、繰り返し身に付けさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「計算の見積もり」を育てるために、新しい計算の仕方を考える際に、授業の中で教師が意図的に「答えは、およそいくつくらいになりそうか」と問うようにしたり、授業の最後には見積もり通りになったかどうかの確かめをさせたりする。 ・「量の大きさについての見当付け」では、身の回りにある物の長さを測る際に、長さの見当を付けてから実際に測るといった活動を行わせる。授業においては実感を伴うような体験的な活動を行うとともに、日常生活との関連を踏まえた指導を行う。 ・「いろいろな視点からの図形の見方」では、全学年とも図形の観察、分類、構成を通して、図形の構成要素を知り、その関係を考察して図形の理解を深めていくようにする。 ・「変化の様子への着目」では、伴って変わる二量の関係性を捉える学習だが、2年生の「かけ算」ではかけられる数が一定の時かける数が増えれば、積も増えることを学習している。4年生以降は一方の数量が変化し、もう一方の数量も変化する時、何か決まりがありそうだと表に書いて調べ、整理することでより決まりを見つけやすくさせるようにする。 ・「割合の見方」では、全体と部分を関係づけて考えられるようにする。
<p>主体的な学習態度の育成、学習への意欲</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的な学習には「面白そうだな」と興味・関心をもたせる教材との出会いを大事にさせる。また「やりたいな」と思える単元の達成目標（ゴール）を提示し、見通しをもたせる。学習する前に、これからどのような学習をするのか、どのような力を付けるのか、教師と児童で話し合い教師と児童とで学びの視点の共通理解を図り、「やれそうだ」と思えるようにする。

「学習力サポートテスト」「学力向上を図るための調査」「全国学力・学習状況調査」及び1学期の学習状況の成果と課題			
	第 4 学 年	第 5 学 年	第 6 学 年
<p>国 語</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○本に親しんだり、辞書を使って語句を進んで調べたりするなど、関心が高い。 ○場面の移り変わりに注意して文章を読むことや、段落の役割を理解して内容を的確に読み取ることができる。 ▲書こうとする中心を明確にし、決められた文字数で文章を書くことに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○聞き取るべき内容を自分で判断し、話の中心となる情報についてメモを取りながら聞くことができる。 ○相手や目的に応じて書きたいことが適切に伝わるように書くことができる。 ▲文の中の修飾と被修飾の関係について正しく捉えることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○叙述をもとに場面の様子を正確に読み取ることができる。 ○話し手の意図を考えながら、話しの内容を聞くことができる。 ▲与えられた情報を読み取り、適切な内容を補って文章を書くことが課題である。
<p>算 数</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えを説明したり、図に表したりすることができる。 ○あまりのあるわり算の筆算を正しくできる。 ▲題意を捉えて、立式し、答えを求めることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○長さや重さ、量などの単位換算が正しくできる。 ○分度器を正しく使って角度を測ったり、作図したりするなど角度を正しく理解している。 ▲四則計算において積や商の大きさを正しく捉えていない。 ▲十進位取り記数法の理解が十分でない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○計算のきまりを使って四則計算をすることはおおむねできている。 ▲分数の計算はできるが、小数の計算に課題がある。 ▲合同な三角形を作図することや、高さが図形の外にある平行四辺形で、面積を求めるために必要な長さの場所など図形についての理解が十分ではない。

<p>社 会</p>	<p>○お店や工場の仕事について、仕事内容やその工夫を理解している。 ▲資料を読み取る力に課題がある。</p>	<p>○東京都の都市や交通、特色ある地域について理解している。 ○地図を正しく読み取ることができる。 ▲資料から取り出した情報を関連づけ、課題を読み取ったり、推論したりすることに課題がある。</p>	<p>○日本の農業と水産業、工業生産についてよく理解している。特に地産地消の工夫についての理解が高い。 ▲国土の自然などの様子の理解に課題がある。</p>
<p>理 科</p>	<p>○実験の結果を考察してまとめる力が高い。 ▲昆虫のからだと磁石の性質についての理解が十分ではない。</p>	<p>○昆虫の体のつくりの特徴を理解している。 ○実験や観察の結果から分かることを推論したり、資料から読み取ったりすることができる。 ▲方位磁針や実験器具の正しい取り扱い方についての理解に課題がある。</p>	<p>○電流のはたらき、ふりこのきまりについては理解している。 ▲植物の発芽と成長について、実験の意味や方法に課題がある。</p>
<p>調査以外の教科についての成果 (○) と課題 (▲)</p>	<p><音楽> ○リコーダー奏法の工夫や、歌詞の理解により表現の工夫ができる児童が多い。 ○基本的な器楽の奏法は指導の工夫により習得している。 ▲歌唱、器楽・鑑賞の分野や楽曲により興味・関心に差が生じているので、課題提示方法を工夫する必要がある。 ▲表現の工夫をするために、発声や呼吸方法など継続的な指導が必要である。</p> <p><図画工作> ○イメージを広げたり、形や色から発想したりできる。 ▲既成のものからの発想になる。 ○絵の具などの材料の特徴を生かす工夫ができる。 ▲思いついた事を表すための工夫が難しい。</p> <p><家庭>○簡単な物から難易度を少しずつ上げて、作品を作りながら、いろいろな縫い方の技能を身につけることができる。 ○いろいろな縫い方を理解し、名前を覚えることができた。 ○生活リズムを整えるための方法を理解することができる。 ▲調理では火加減が上手く調節できず、野菜炒めの色が茶色くなってしまう。 ▲「ゆでる調理」では、ゆでるものによってゆで方が違うことや水の量の名前など、調理はできたが、理解が十分ではない。</p> <p><体育>○運動に対する興味・関心をもって意欲的に学習に取り組んでいる児童が多い。 ▲技能面での個人差がある。体力テストの結果からは投力が低い。</p>		
<p>調査以外の学年について 1 学期の学習における成果 (○) と課題 (▲)</p>	<p>第 1 学年</p>	<p>○話題に対して進んで話し、聞くことができる児童が多い。語のまとまりを意識して物語文や説明文を音読できる。 ○平仮名50音の字形を整えて書くことができる。 ○自分の経験したことについて3文程度の短作文を書くことができる。 ▲句読点、促音、拗音などについての定着に課題がある。 ○意欲的に計算したり、数の大小を表したり、半具体物を操作したりすることができる。 ○数の順序や大小について理解できる。</p>	

		▲文章題では、注意深く読みとらず、場面を理解できていない児童が多い。
第2学年		○音読、漢字練習、読書など国語に対する関心・意欲が高い。 ○書く事柄や順序を考えて文を書くことができる。 ○言葉のまとまりに気を付けて音読をしたり、文章の内容を正しく読み取ったりすることができる。 ▲話の内容を考えながら、話し手を見て聞くことに課題がある。 ▲送り仮名の間違が多い。 ▲文章を書くときに漢字を使うことに課題がある。 ○家庭学習でのプリント学習を通して、文章問題の読み取りの定着が見られる。 ○足し算、引き算の筆算ができる。筆算の仕方がわかり、説明できる。 ○1000までの数の仕組みや位、順序について理解している。 ▲長さを測ること、正しい長さの直線を引くこと、長さの計算をすることに課題がある。 ▲日、時、分の関係や午前、午後を使った時刻の表し方に課題がある。
第3学年		○身近な事柄から題材を選んで、「始め、中、終わり」の段落を意識して文章を書くことができる。 ○文章をよく読んで、読み取りができる。 ○スピーチでは、事前に話す内容を考えて、スピーチをすることができる。 ▲話を最後まで聞かず、途中で質問をしたり、自分の思っていることを話し出したりする。 ▲読書量の個人差が大きい。 ○算数では意欲的に学習に取り組み、積極的に発言できる。 ○3桁のかけ算の筆算はよくできた。 ▲自分の考えをノートに書いて発表する力に課題がある。

昨年度の授業改善プランに基づく結果（○）と主な課題（▲）	
<p>○「自分の考えを述べる、説明する」力を付けるために、全教科において書くことの日常化を図ることにより、事実と意見を区別して書くことができるようになってきた。</p> <p>○小集団での対話を取り入れた学び合いにより、自分の考えを伝えること、広げることができてきた。</p> <p>○問題解決能力を高めるために、図や表、絵などを多く取り入れ、児童の発想を大事にした授業にしたことで意欲的に学ぶ児童が増えた。</p> <p>○少人数指導では、個別指導の時間を確保することにより、学習意欲が向上した。</p> <p>▲資料から読み取ったことをもとに、考えを広げたり深めたりすることに課題がある。</p> <p>▲学習内容の理解に個人差が大きい。</p> <p>▲「数学的な考え方」の理解には課題があり、継続的な指導が必要である。</p>	



改善の方針	<ul style="list-style-type: none"> ・学習力サポートテスト等の結果を分析・考察し、児童の理解が不十分で、習熟が低い内容については、再度指導をしたり、指導法を工夫したりして、習熟を図る。 ・一人一人の課題を明確にし、個に応じた指導を重視する。 ・問題解決学習において論理的に考える力を育てる。 ・小集団による協働的な学習活動を有効にするために聞く・話す力、対話の力を高める。
-------	---

【本校の授業改善に向けた具体的な方策】

改善のための指導計画	<ul style="list-style-type: none"> ○各教科等の年間指導計画を活用し、計画的な指導をする。 ○算数では、学習力サポートテストの結果から、つまずきそうな単元の時間数を増やすなどの工夫をする。 ○週案には目標を明確に記入し、1単位時間の評価を次の時間に生かす。 ○週予定に書かれている時数と週案の時数を照らし合わせ、授業時数の確保をする。
改善する指導内容 (教科、領域、観点等)	改善のための指導方法、指導体制
各教科 国語「話すこと・聞くこと」 「書くこと」 「言語について」 算数	<ul style="list-style-type: none"> ○「自分の考えを述べる、説明する」力を付けるために各教科において書くことの日常化を図る。 ○小グループでの学習等、学習形態の工夫をする。 ○グループで話し合い、全体で学び合う学習活動を工夫する。 ○ペア活動やグループ活動を多く取り入れて、児童が発表する機会を多くする。 ○机間指導の際、配慮を要する児童への声かけを多くし、適切な助言をしながら、コミュニケーションを図り、意欲を引き出す。 ▲各教科で振り返りを大切にする。日常の授業の様子をはじめ、単元の中間及び終了時にノートやミニテストなどにより児童の理解度を把握する。 ○話型を活用し、自分の言葉で考えをわかりやすく話せるようにする。 ○対話の進め方を指導し、対話を活用した学習活動を取り入れる。 ▲常的な活動の中で、「話すこと・聞くこと」のねらいを絞った指導をしていく。また、児童が学習のねらいを意識して学習できるように教室掲示を工夫する。 ▲読み聞かせを行い、一定時間集中して聞くことができるようにする。 ▲視写の学習活動を多く取り入れ、文の書き方に慣れさせる。 ▲文章の組み立てを意識させ、短作文の反復練習を行う。 ▲辞書を活用し、言葉の意味や使い方を理解して文章を書くようにする。 ▲書くことが苦手な児童に対して、文章を書く際のルールをまとめたプリントなどの補助教材を用意するとともに、思いや考えを引き出すために対話をしながら文を書かせる。 ▲朝の「はげみタイム」に書く活動を取り入れる。 ▲新出漢字を定期的に練習する機会を設け、反復練習をする。定着するまで漢字の小テストを行う。 ○習熟度別指導では、レディネステストを実施し、習熟度別にグループ編成し、基礎・基本グループは人数を少なくし、個別指導を充実する。 ○習熟度別指導を効果的に進めるよう、単元前、授業前に進め方や進度について共通理解を図る。また、個別指導カードを作成し、担任と算数指導者との共通理解に生かす。 ○習熟度指導を充実させるため、補充的な学習、発展的な学習に対応できる教材開発をする。 ○問題解決能力を育てるために、児童が考える時間を十分に確保し、自分の考えを図や言葉、数で表し、それを表現する場を多くする。 ○具体物や半具体物の操作活動を積極的に取り入れ、問題場面の理解や立式の判断ができる抽象概念の育成を進める。 ○理解が不十分な児童には、スモールステップで考えていけるような資料や課題を提示するようにする。 ▲自分の考えをペアやグループ、学級で共有し、学び合う活動を増やす。 ▲自力解決でつまずいている児童を集めて、少人数指導を行う。学習の理解度に応じた練習問題を用意する。 ▲単元末テストの結果を分析し、理解が不十分なものについては、再度

社会	指導するなど、繰り返しにより定着させる。
理科	○様々な資料の中から自分が必要な情報を選び、資料をもとに自分の考えを表現していく活動を多く取り入れる。
体育	○観察や実験では、結果の予想と、その理由を考えさせ、結果から考察をまとめるという問題解決型の学習を展開する。 ○観察、実験を多く取り入れ、観察の仕方や実験器具の扱い等の指導を確実に行う。
評価活動の工夫	○評価の観点を示し、自己評価したり、相互評価したりする機会を増やし、自分の学習の定着状況を客観的につかめるようにする。 ○書くことについては、互いに書いたものを読み合う交流活動を取り入れ、相互評価を行う。 ▲座席表型記録用紙を使い、児童の実態を記録し、評価と指導の一体化を図る。 ▲児童の作品やノートを分析し、変容をとらえて評価し、一人一人へ指導に生かしていく。 ▲振り返りカード等を使い、自己評価や相互評価ができるようにする。
家庭や地域との連携の工夫	○基礎学力を身に付けるためにも、家庭と連携し、家庭学習の習慣化を図る。 ○生活科や総合的な学習の時間は、地域や保護者と積極的にかかわった学習活動に意図的・計画的に取り組む。
検証方法	○日常の授業の様子や、単元末の評価を学習力サポートテスト等の結果と比較しながら検証していく。 ○個別指導カードに学習状況を記録するとともに、算数少人数講師、非常勤講師と連携し、個別の状況を分析する。 ○学習時にこまめに評価記録を残し、すぐに児童にフィードバックする。

<p>【学力向上を支えるその他の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 国語・算数の基礎・基本の定着を図るために漢字・計算を中心とした朝の学習（はげみタイム）を充実させる。実施計画を見直し、学習力サポートテスト、学力向上を図るための調査、全国学力調査等で課題となったものについて、くり返しの学習を行う。 ○ 朝の「はげみタイム」における東京ベーシックドリルの活用や4・5・6年生の希望者を対象にした放課後補習教室（アフタースクール）の実施により、基礎学力の定着を図る。 ○ 年間2回の読書月間、週1回の朝読書を行い、読書の喜びを味わわせるとともに、読みの力を高める。 ○ 毎月、「今月の詩」で下学年、上学年にあった詩を紹介し、休み時間には「暗唱テスト」に取り組み、語彙力向上や言葉に親しむ活動を推進する。 ○ 週1回、地域の保護者による読み聞かせを行い、本の楽しさに触れさせる。 ○ 道徳の研究を通して、安心して発言し、互いを認め合える学級づくりをすすめる。 ○ 学習発表会（2月実施）を通し、児童一人一人の学びの発信として企画力・表現力・思考力等、教科等と関連する総合的な学力を高める。
